



武蔵野

学校だより NO. 8
平成30年11月号
昭島市立武蔵野小学校
校長 岡部 操

「ありがとう」はみんなを幸せにする言葉です！

—11月はふれあい月間—

校長 岡部 操

各地から紅葉の便りが届き、朝夕の冷え込みを感じるようになってきました。

先月は東京都体力向上努力月間でした。本校の運動会や地域の各ブロック運動会が開催されたところです。体力テストの結果は各家庭にお伝えしたところですが、本校の平均は昭島市や都を大きく上回ることができました。今後も健やかな体を目指してまいります。また10月は読書週間を設けて、朝の時間を読書に充て全校で取り組んできました。1～3年生の保護者の皆様には、読み聞かせで各学級に入ってくださいました。朝のお忙しい時間帯にも関わらず、ご理解とご協力をいただきありがとうございました。

さて、学校の中で集団生活をしていくときには互いのコミュニケーションが大切になってきます。その中で言葉によるコミュニケーションが大切ですが、ここでは「ありがとう」の言葉について考えてみます。学校においては日常的な指導と同時に、道徳の時間に自分を見つめるための時間を設定し、「人との関わりに関すること」についても学んでいるところです。また、学級活動でも、日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全の中で、「基本的な生活習慣やよりよい人間関係の形成」に心がけているところです。一般的に「ありがとう」と友達同士で伝え合える関係は、互いに認め合える関係です。互いを認め合い、十分な人間関係をつくっていくためには、相手に対する尊敬と感謝の気持ちが不可欠です。

家庭や社会の中ではどうでしょうか。ここでは「感謝の言葉」より「お願いの言葉」が多いのではないのでしょうか。例えば「早く起きなさい」「早く食べなさい」「部屋を片付けなさい」これらは親がよく使う言葉だと思います。また、子どもたちは「水」「お茶」「しょうゆ」等、これは持ってきて！の意ですが、家庭で使っていませんか。これらは全てお願いの言葉です。

これに対して「ありがとう」という言葉はどのくらい口にしているのでしょうか。とくに家庭の中で、どのくらい感謝の言葉を口に出して、相手を見て伝えているのでしょうか。「言わなくても分かっている」「このくらい言うまでのことではない」と思っていないのでしょうか。相手に対するいたわりやねぎらいの気持ちは口に出した方が伝わりやすいはずです。

心理学者のアドラー氏は、「人は一人では生きていけず、ある共同体に所属する必要がある。その中で、何らかの役割を果たし貢献しているとの実感をもってこそ、生きる意味を見いだせる。」と述べています。

今月はふれあい月間です。お子様や家族間で折に触れて、ちょっとした当たり前の言動に対して、笑顔で「ありがとう」と伝えてみてはどうでしょうか。

きっと、自分や周りの人が幸せな気持ちになるとと思います。